

新入試制度

— いまわかっていることから考える —

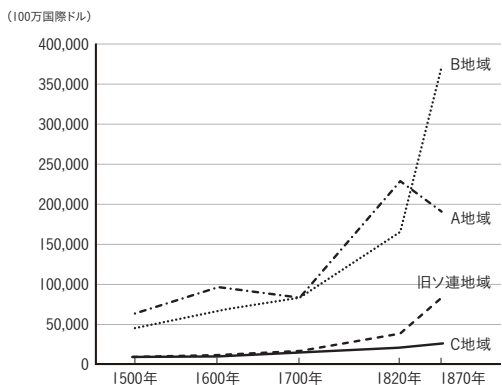
近畿大学 教授 教職教育部長 戸井田 克己

教育を取りまく社会情勢が変化するなか、大学入試のあり方も大きく変わろうとしている。次期学習指導要領では、「育成すべき資質・能力」を中核にすえて学習内容を組織化することになるが、それに呼応して、入試問題も資質や技能、思考のプロセスや判断力といったものをいっそう強く意識したものへとシフトしよう。

このことは、文部科学省（以下、文科省）が主催する高大接続システム改革会議による資料「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）で評価すべき能力とマークシート式の問題イメージ例【たたき台】」（2016年2月）（以下、新テストと略称）においても知ることができる。この資料は文科省のウェブサイトに掲載されている。そこに例示された世界史の問題（注：地理の問題は例示されていない）を見てみよう（資料1）。

資料1 新テストにおける世界史の問題イメージ（文部科学省）

次の図は、「経済統計で見る世界経済2000年史」（アンガス・マディソン著）に掲載されている数値をグラフ化したものである。日本・中国・西欧・旧ソヴィエト連邦（旧ソ連）にあたる各地域の経済規模（GDP）の長期的な傾向を把握するために、16世紀までさかのぼって推計している。グラフと注を読んだうえで、I、IIの問いに答えよ。



注1 「西欧」、「旧ソ連」というまどめ方は、マディソンの著書による。
注2 GDP数値は、主として一人あたり産出額に人口規模を掛け合わせて算出した概算値を用いている。また、国際ドルとは、異なる通貨単位を計量するために使われる単位である。

I 16世紀に4地域中で最大の経済規模をもっていたA地域のGDPは、17世紀の落ち込みののち、18世紀に増加している。それらの背景となる政治・経済・社会の動きについて、下の問いに答えよ。

問1 次の①～⑧のうち、A地域の変動について述べた文として適切なものをすべて選べ。

- ① 16世紀にはこの地域の人々がアメリカ大陸を含む世界各地に進出し、世界の貿易・商業を活性化させた。
- ② 16世紀には日本やシベリアなどの銀が大量に流入して経済が活性化したが、遊牧民や海賊の侵攻に苦しんだ。
- ③ 17世紀には大規模な農民反乱や、東北から侵攻した異民族王朝への抵抗戦争などによって、人口が減少したと考えられる。
- ④ 17世紀には、宗教対立や王位継承紛争もからんで各地で不況や戦乱・社会的迫害が生じた。その背景には地球の寒冷化もあった。
- ⑤ 18世紀には急激な人口増に農業集約化や商工業の発展が追いつかず、辺境部の開発や海外への移民が活性化した。
- ⑥ 18世紀には租税が銀納化される一方、人頭税が廃止され、経済成長にもつながった。
- ⑦ 18世紀には輸出が低迷するが、その一方で国内の商業・手工業が発展し輸入品の国産化にも成功したので、全体として外国貿易に依存しない経済の仕組みが成立した。
- ⑧ 18世紀には農業技術が向上して大規模な農業生産・経営が可能になったため、競争に敗れ土地を失った農民は都市に流入して、工場労働者となった。

問2 問1の①～⑧の中には、A地域以外について正しく説明したのものも含まれている。その例の一つを選び、選んだ文の番号（①～⑧）と、その文の内容に関係の深い事件や物の名前を語群Xから、制度・組織・集団や社会変動の呼び名を語群Yから、それぞれ一つずつ選べ。

【語群X】

- a. メキシコ銀 b. 砂糖 c. 第二次囲い込み d. 三十年戦争
- e. マラータ戦争 f. 島津氏の琉球侵攻 g. 三藩の乱 h. イタリア戦争
- i. 生糸 j. 李自成の乱 k. 日清戦争 l. 茶 m. アヘン n. ゴム

【語群Y】

- ア. 鎖国体制 イ. ブランデーソン ウ. 三部会 エ. ナポレオン法典
- オ. 魔女裁判 カ. 地丁銀 キ. 審査法 ク. 台湾開発 ケ. 東インド貿易
- コ. 華僑 サ. 八旗 シ. 産業革命 ス. 西部開拓 セ. 強制栽培制度

問1 ③, ⑤
問2 ①-a-ケ, ④-d-オ, ⑦-i-ア, ⑧-c-シ
(上記4組の中から、いずれか1組を解答する)

※IIの問いは省略。

この問題がもつ新傾向について、文科省は、「異なる地域の長期変動に関する歴史資料をよみといたうえて、関連する出来事を多面的・多角的に考察する必要がある点。また、正答選択肢が一つに限られず、複数存在する点」(傍点は筆者)をあげている。傍点部は地理を含む

他教科・科目にも適用されるべき基本的な方向性といえよう。

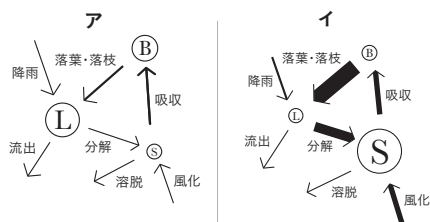
また、紙幅のつごうで割愛したが、資料1に続くⅡの問3・4では、「歴史的事象に関する仮説を立てて話し合う場面において、その仮説を裏付ける論拠を問う点」(同)をあげて、問題を例示している。正答となる歴史用語をストレートに問うのではなく、仮説の立論に役だつ事象やデータと、役だたない事象やデータとを峻別できる力をみよとしている。加えて、日本語読解力も要求される設問となっている。これらの点も、地理を含むあらゆる教科・科目に適用されるべきものといえよう。

以上の世界史の問題例をヒントに、地理の問題を試作してみよう(資料2)。

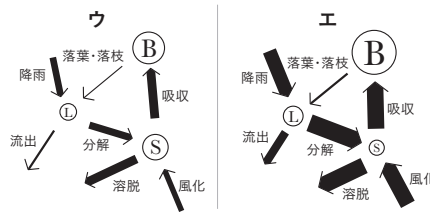
資料2 新テストにおける地理の問題イメージ (戸井田作成)

自然の生態系は、植物を育む土壌、動物の食料となる植物、土壌の栄養分である動植物の、三者間での物質の循環によって成り立っている。

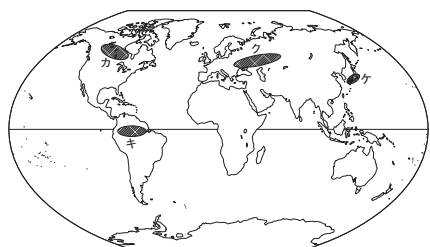
次の図1は、自然の生態系を模式的に表したものであり、Bはバイオマス、Lは堆積腐食分、Sは土壌を示している。また、○(マル)の大きさと賦存量の大小を、→の太さで養分移動量の大小を表している。図1中のア～エのモデルは、図2中のカ～ケのいずれかの地域において典型的に見ることができる。



(図1)



(図2)



(資料『地理講座 第3巻 環境と生態』古今書院による)

問1 次の①～⑥のうち、図1を説明した文として適切なものをすべて選べ。

- ① 養分の分解や吸収の大小は、その土地の気温や降水量に大きく影響される。
- ② 養分の流出や溶脱の大小は、その土地の気温や降水量にあまり影響されない。

- ③ アで、堆積腐食分の分解があまり進まないのは、高温多湿な環境が原因と考えられる。
- ④ 草木の焼却灰を肥料とする焼畑農業は、イの地域で発祥したと考えられる。
- ⑤ 土壌とバイオマスが最もバランスよく、良好な状態にあるのはウだといえる。
- ⑥ 地球上で、動植物の量や生物多様性に最も恵まれているのはエだといえる。

問2 図1中のア～エにおけるSの名称を語群Xの①～⑥から、それらが最も典型的に分布する地域を図2中のカ～ケから、それぞれ一つずつ選べ。

【語群X】

- ①褐色森林土 ②砂漠土 ③チェルノーゼム ④ポドソル
- ⑤ラトソル ⑥レグール

正答 問1 ①、⑤、⑥
問2 ア-④-カ イ-③-ク ウ-①-ケ エ-⑤-キ

この問題では、図1という初見の資料を読解させることで、土壌(S)・そこにみられるバイオマス(B)・落ち葉や枯れ草などの堆積腐食分(L)の三者間のバランスによって自然の生態系が成り立っていることを理解させるとともに、それぞれの生態系が寒暖・乾湿からなる気候的な特性によって決定づけられること、それぞれの生態系が地球上のどの地域に分布するかということを多面的・多角的・総合的に判断させようとしている。

以上のように、地理の新テストにおいては、

- a. 地理資料をよみとき、地理に関する重要な情報を取り出す力
- b. 資料(主題図・数値資料・模式図・景観写真など)と地理的事象とのかかわりを推論する力
- c. 地理的な諸事象の相関関係や因果関係を多面的・多角的・総合的に分析、考察する力
- d. 日本を含む世界の地理的事象や、多様な世界の地域性を複合的・関連的に理解する力
- e. 資料などの根拠にもとづいて、論理的に表現する力

などが問われることになろう。

このような学力は、地理では大学入試センター試験を中心に従前から求められてきたものであり、『新地理B』においても力点を置いて編集してきたものの一つである。すなわち、全20テーマからなる多種・多様な「技能をみがく」のコーナーや、数多くの図につけた「読図」の視点、学習のめあてとなる「リード」、まとめ時における「チェック」など、二重三重に学習課題を設けてこうした新学力の伸長に配慮してきた。

今後は上記a～eのような学力が、より深く、広く身につく学習指導のあり方が求められよう。